

三珠中だより

学校だより 第12号
令和4年3月7日
発行：仙洞田和男

＜PTAホームページ＞



卒業おめでとうございます～前途に幸多かれ～

3月10日（木）は、第61回卒業証書授与式です。3年生にとってコロナ禍での2年間は、思うような学校生活を送ることができず、思いっきり生徒会活動や部活動に打ち込めることもできず、我慢することも多かったのではないかと思います。しかし、そんな中でも持ち前の明るさとパワーで学校生活をリードしてくれました。私たち職員も、先行き不透明な中での学校生活に不安がなかったわけではありません。そんな心配や不安も3年生の頑張りを見て、何度も力をもらったものです。**小林雄飛先生**は、1年生の時から3年間、**兩宮瑞樹先生**は、2年生の時から2年間、ずっと3年生の近くで見守ってくれていて、たくさんの愛情を注いでくれました。**磯野路子主任**は、最後の一番大変な年を3年生の進路実現のために頑張ってくれました。**石井泉先生**は、3年生所属として数学の授業はもちろん、3年生の良き相談相手となっていただきました。皆さんは、これまでたくさんの方々を支えられ、見守られながら、晴れて卒業の日を迎えます。



様々な思い出がぎっしり詰まった三珠中学校での思い出を心の糧にして、それぞれ選んだ道をしっかり歩んでほしいと思います。

様々な思い出がぎっしり詰まった三珠中学校での思い出を心の糧にして、それぞれ選んだ道をしっかり歩んでほしいと思います。



<保護者の皆様へ>

お子様のご卒業、おめでとうございます。たくましく健やかに成長されたお子様の姿に感慨ひとしおのことと思います。これまで三珠中学校の数々のご支援をいただきましたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。
～三珠中学校教職員一同～

努力は決して裏切らない ～夢をつなぐ～



井村雅代アーティスティックスイミング（シンクロナイズドスイミング）元日本代表ヘッドコーチの言葉を紹介します。

「日々の目標とは、**一步前への努力で叶えられる目標。毎日毎日進化していくことが大事。一ミリの努力、一秒の努力の積み重ねが大事なんです。**」

昨日より今日は1mm高い位置にいる自分。毎日1mmの努力を続けると1ヶ月後は3cmの高さ、1年後は36.5cm。駅の階段なら2段目の高さです。そして10年続けると365cm、ビルの2階の位置にいます。これを20年続けると3階、30年続けると4階の高さにいます。

1日1ミリの努力でも、積み重ねると自分の立つ位置が大きく変わってきます。**気がつけば見える景色も大きく変わり、遙か遠くまで見通すことができる成長した自分がそこにいるのです。**

山梨県教育委員会の冊子「つばさ52号」に三珠中の道徳実践が紹介されました。

市川三郷町立三珠中学校

心豊かで、確かな学力をもち、主体的に活動する生徒の育成

～生徒が主体的に考え、議論することのできる道徳科の工夫～

研究の概要

1. 発問の工夫・議論するための工夫に焦点化した授業づくり
2. PDCAサイクルに基づいた協働的な研究推進

Point ① 発問の工夫

2年生「夢中になるのは悪いこと?」、3年生「手品師」を教材とした授業実践。中心発問で考えが深まるように、補助発問や、生徒の発言を予想した問い返し・切り返しの発問を工夫。

◎ 中心発問

「よりよい人生を送るために大切にしたい気持ちは何か」



○ 補助発問・問い返し・切り返し

- ・このままの生活を続けていたらどうなったか。
- ・二人の気持ちが変わったのはなぜか。
- ・自分を変えられず困ったことがあったか。

◎ 中心発問

「あなたはこれからどんなことを大切にして物事を決めていくか」



○ 補助発問・問い返し・切り返し

- ・手品師が迷いに迷った理由は何か。
- ・その後の手品師はどんな気持ちか。
- ・なぜ自分のことは自分で決めた方が良いのか。

Point ② 議論するための工夫



○ 学習形態の工夫

- ・個人→グループ(ペア)→全体の順に学習を進め、考えを広げ、深めていく。
- ・グループワークが難しい場合は、ホワイトボードに考えを書いて交流するなどの方法を工夫する。

○ グループワークへの教師の関わり方の工夫

- ・グループワークが意見交換だけで終わらないよう、教師が生徒の意見をつないだり、考えを深めるための視点を与えたりするような関わり方をする。

○ 学級の雰囲気づくり

- ・互いの意見を聞き合い、自分の考えを安心して発言できる雰囲気をつくる。



Point ③ 協働的な研究体制づくり

○ 公開研究会に向けて

2年・3年の各1学級で公開研究授業を実施した。全教職員が2つのグループに分かれて模擬授業を行い、ねらいや中心発問について検討し、協働して授業づくりを進めた。

プレ授業では「心情と実践意欲・態度のどちらを主にするのか」「アンケート結果をどの場面で提示するのが有効か」などの課題が出された。校内研究会で課題を共有し、公開に向けてさらなる授業改善を図った。



○ 研究会の進め方

本校では、全ての参加者が主体的に研究会に参加するために、グループ協議・付箋を利用した研究会を行っている。「主体的に考える 発問の工夫」「議論する 学習形態の工夫」を観点とした検討シートを使い、成果と課題が明確になるようにしている。

多角的な見方ができ、新たな授業改善の方法を発見できるという点で有効だと考えられる。

